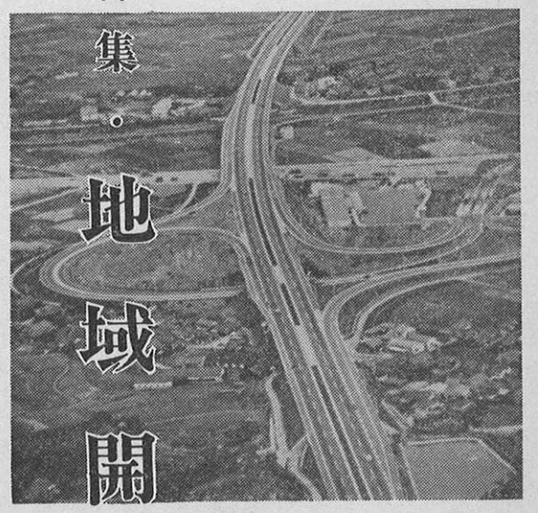
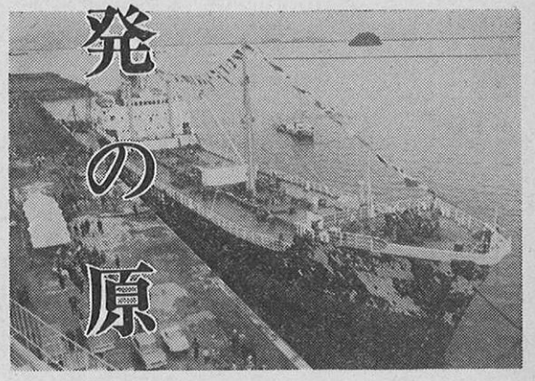
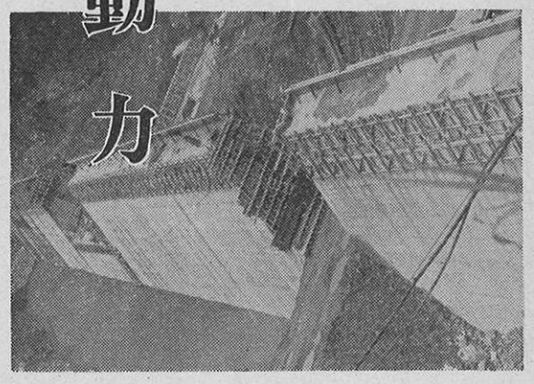
特集・地域開発の原動力







――土木行政の焦点――

産業基盤の整備は、地域開発の基礎であることはいうまでもない。道路、鉄道、港湾の整備は、熊本県の工業化あるいは農林漁業の近代化への大きな原動力となるものである。

また、都市化への道を歩むために、都市機能の強化、生活環境が強力におし進められているのである。

■九州縦貫高速自動車道

わが国経済の驚異的な成長に伴なう交通需要の著しい増加と、自動車輸送の進展による鉄道から自動車輸送への移行は、単なる既成道路の整備では、充分これに対処することができない状態である。

このため、道路交通体系を抜本的に改善して、近代的な交通体系を完成するためには、従来の道路網や、鉄道網の整備と相俟って、第三の陸上交通路として、高速自動車路網の建設が緊急の重要事として、昭和三二年国土開発縦貫自動車建設法の公布など、その建設が促進され、九州においても、九州縦貫自動車道が建設されることになった。

国は、さきに全国三二路線、延長七、六〇〇粁に及ぶ幹線自動車道を、昭和六〇年までに完成させるメドを樹て、そのうちの九州道、中国道、中央道、北陸道、東北道の五縦貫道を含む四、〇〇〇粁については、一〇箇年で完成させる計画であるが、本県内の道路については、日本道路公団が昭和四〇年一二月一六日に熊本調査事務所を設置して、いろいろの調査や計画を進めており、第一期着工区間として、本県内の三七・五粁は既に調査を完了し、昭和四一年七月二五日には整備計画が策定され、日本道路公団に対し、建設大臣から施行命令が出された。この結果、九州道ではこの三七・五粁を含み、福岡県粕屋郡粕屋町から飯塚郡託麻村までの一〇二・一粁についていよいよ着工の運びとなった。

道路公団熊本調査事務所では、昨年八月から関係部落ごとに路線の説明会を行ない、立入踏査を開始し、九月一六日には植木町において中心杭の打ち込み、起工式が行なわれ、全線に亘って中心線の杭打を実施している。

また、昭和四一年一〇月二一日には、同調査事務所が、工事事務所に昇格し、機構や、人員も整備充実されて、一一月中旬には、ほとんど全線の測量を終了、県の関係部課との設計協議、関係市町村の執行部や関係部落ごとの説明会を終り、一二月には県や地元の要望を加味して計画の調整を行なうとともに、一方では幅杭打や境界線の測量を開始した。

なお用地買収の交渉は一二月二一日から関係九市町村と始めており、一月には各市町村の用地買収交渉委員会で一応の値段を決めてもらい、公団が計算した値段と調整したあと、下旬には、路線いっせいに買収価格を発表し、早ければ二月上旬から用地買収にはいることになっており、順調な進捗ぶりである。

なお、熊本市以南の縦貫道についても、目下九州地方建設局において調査中であるが、近くルートも決定し、基本計画ができることと思われる。

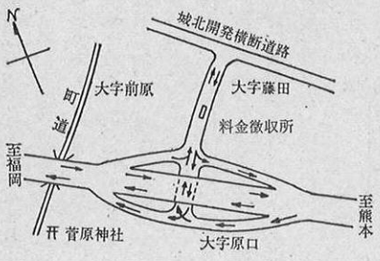
熊本県内の既に発表されているインターチェンジの型、標準横断面図及び昭和四二年度の事業要望額は次のとおりである。

この、高速道路の建設による効果について述べると、今後一〇〇長距離輸送の需要に対応することができるとともに、大都市相互間の流通基礎手段が確立され、更に輸送のスピードアップと効率化が図られるなど、地域開発に及ぼす効果は極めて大きい。

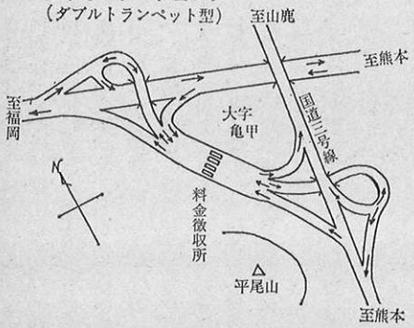
一、県民の振興意識が高まる。

昭和三九年一〇月九州横断道路の開通は、これまで隔離されていた九州東部と西部を有機的に結合し、空白地帯となっていた中部九州の産業観光開発に大きな役割を果たし、また、昨年完成した天草五橋は、天草島の産業、経済、観光の開発に新たな導火線となることが期待されており、それぞれ「やまなみハイウエイ」及び「天草パルラインー」と愛称され、今や全国的にパークロードとして絶大な注目を浴びているが、更に、この九州縦貫自動車道路が着工されることにより、本県内を縦

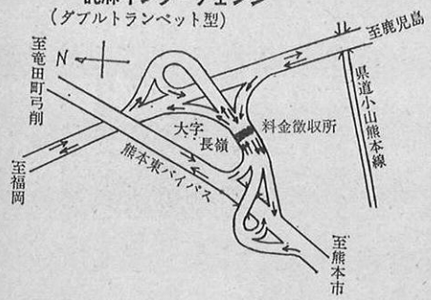
菊水インターチェンジ
（ダイヤモンド型）



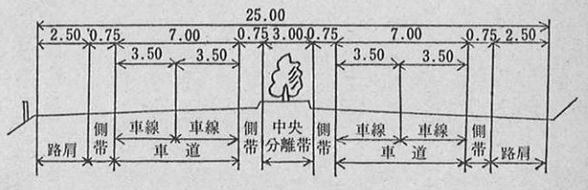
植木インターチェンジ
（ダブルトランペット型）



託麻インターチェンジ
（ダブルトランペット型）



注 南関インターチェンジについては県道との調整がつきしだい発表されることになっているが、これは菊水インターチェンジと同じ型になることと予想される。



（単位 千円）

事業名	全体計画 事業量	全体計画 事業費 (A)	S40年度迄事業費 (B)	S41年度事業費(C)	進捗率 (B)+(C)/(A)	残事業費	S42年度要望額
九州縦貫自動車 北九州―<鹿児島・宮崎	km 400	300,000,000	0	4,000,000	% 1.3	296,000,000	50,000,000 福岡―熊本間 15,000,000